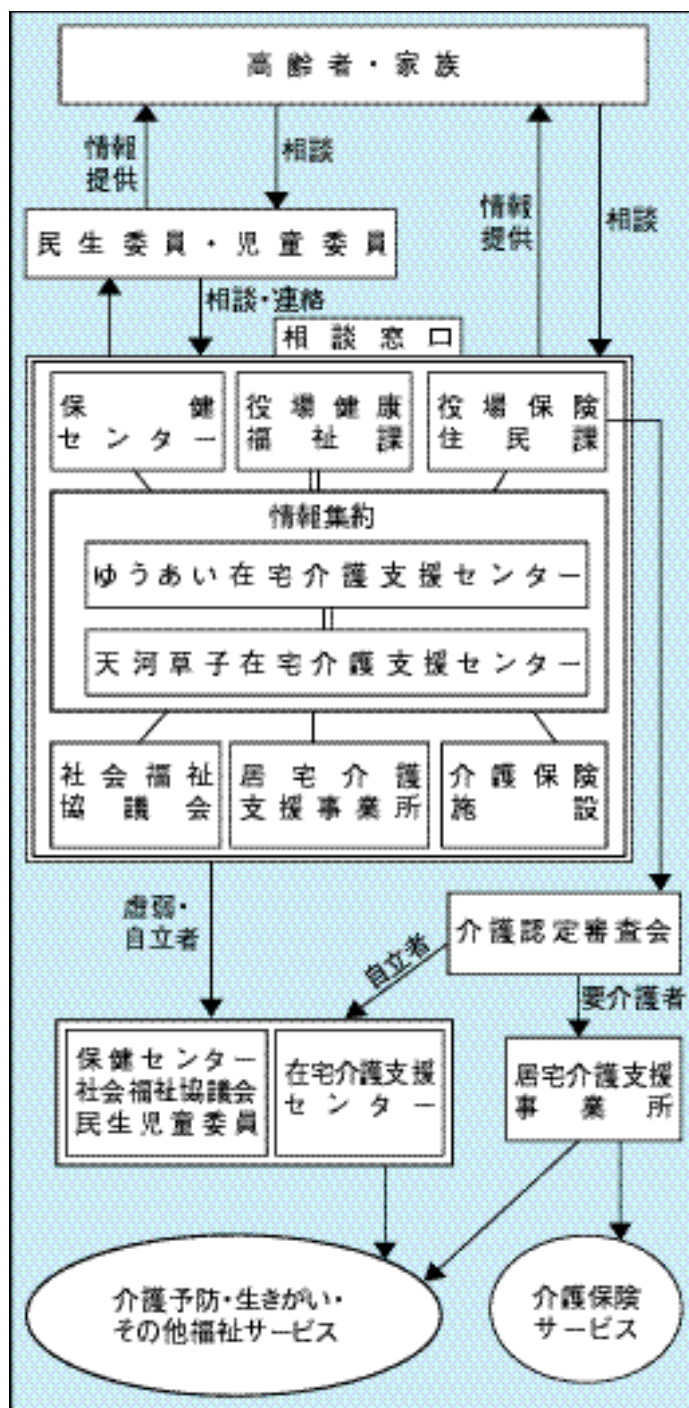


新しい痴呆ケアの時代へ

物忘れと痴呆の違い

	物忘れ	痴呆
原因	加齢により生じる	病気により生じる
記憶障害	とっさに思い出せない物忘れ	経験自体を忘れる健忘
自覚	あり	なし
時や場所の誤り	なし	あり
社会生活	支障がない	営むことが困難
幻覚・妄想・人格変化	なし	生じることが多い

力を合わせて介護していきましょう



環境の変化や周囲の言動に敏感になり、不安やストレスを感じやすくなっています。痴呆の人、そんな状況から自分自身を守るうと、懸命になります。大きな不安やス

していただきます。各種福祉の窓口相談したり、家族会や介護教室をのぞいてみてくださ。きつと、介護のコツを知り、相談相手を得ることでの負担が軽減するなど、痴呆の人と家族がより豊かな生活を送るためのヒントが見つかるはず。

私達が協力します

サービスを必要とする方が適切なサービスを円滑に利用できるように、左記のように

各関係機関が協力体制をとっています。プライバシーに配慮してご本人にも確認した上で、必要な情報交換を行い、その方の地域生活をみながら支えていこうというネットワークづくりをしていますので、お気軽にお問い合わせください。

痴呆とは？

痴呆の原因は病気です。原因となる病気はいくつもあり、最も多いのが脳の萎縮が起るアルツハイマー病で全体の約5割を占めています。また、2番目に多いのが脳血

今、日本では、約160万人の人が痴呆(ちほう)であると言われています。今後高齢化が進むにつれて、10年後には250万人に達すると推計されています。猪名川町でも、平成16年9月現在、介護保険認定者の約4割に痴呆の症状が認められています。痴呆については、急速に研究が進み、診断や治療、そしてケアの道が開き始めました。痴呆を私達自身の問題としてとらえ、痴呆になっても、自分らしく住み慣れた地域で生活していくこと、そして家族も安心して介護ができる町づくりをすることに注目が集まっています。

痴呆によって起こる障害

痴呆は脳機能に障害が起こる病気です。記憶や学習・判断などの機能が低下し、日常生活に支障が出てきます。一方で、喜怒哀楽はとても豊かで、感性はむしろ研ぎすま

上手にサービスを上手にサービスを利用しよう

家族にも、自分の暮らしがあります。しかし、家族介護は24時間休まる時がありません。家族だけで抱え込み、心身ともに疲れている人がたくさんいます。痴呆の人を暮らしの中で支えることは、家族だけではなかなか大変なことです。痴呆の人と家族双方が、安心して穏やかに生活できるように、上手にサービスを利用

在宅介護支援センター

介護・介護予防について、総合的な相談を受け付けています。必要に応じて介護保険やその他サービスにつなぎます。介護教室の企画・開催、痴呆予防教室なども行っています。

ゆうあい在宅介護支援センター (766-1200)

天河草子在宅介護支援センター (765-2225)

居宅介護支援事業所

ケアマネジャーが、介護保険サービスについて介護度に応じて、サービス計画を作成し、サービスの調整を行います。

今井病院 (767-2877)

天河草子 (765-2225)

ゆうあいセンター (766-1200)

保健センター

各種健診・健康相談などを行っています。保健師が心と身体の健康づくりをお手伝いしています。

保健センター (766-1000)

民生委員・児童委員

地域住民の一員として、地域の皆さんの最も身近なところで福祉問題に取り組んでいます。関係機関へのパイプ役として、いつでもどんなことでも、気軽に声をかけてください。

民生委員児童委員協議会事務局(健康福祉課内 766-8701)

社会福祉協議会

地域の様々な福祉問題を地域全体・住民の問題として捉え、住民の福祉活動の場づくり・仲間づくりなどの支援を行っています。また、福祉に関する関係者・団体・機関の連携を進めたり、具体的サービスの企画実施を進める、公共性の高い民間の福祉団体です。

社会福祉協議会 (766-2525)

役場(健康福祉課・保険住民課)

介護や福祉に関する相談を受け付けます。

役場 (766-0001:代表番号)

お気軽にご相談ください

ゆうあい在宅介護支援センター

保健師: 柏原 加寿美(左)

社会福祉士: 大森 由香(右)



年齢を重ね、多くの人が気力・体力ともに低下し、日常的に行ってきた家での仕事や余暇活動などの機会を失っていきます。何もすることのない暮らしが、痴呆を招き、その進行を早める一因となります。「頭を動かせる」「手先を使う」「身体を動かす」「バランスよく食べる」「心を元気にする」などの健康増進を意識的に行うことが、痴呆予防にもつながると言われています。

痴呆の人は何もかも分からなくなり出来なくなるわけではありません。私達のサポート次第で、思わぬ力を発揮したり、感情表現を豊かに生き生きと過ごすことができます。痴呆の方の傍らに座り、ゆっくりと話しかけてみてください。その人の秘めた可能性と豊かな人間性が見えてきます。

これから先、痴呆の方やご家族が自分らしく、安心して暮らせるような社会とするために、どんな不安を抱えておられるのか、どんなサービスを必要とされているのか、皆さんの声を気軽にお聞かせください。より良い介護に向けて、私達をはじめ、右記専門機関が一体となって、ご家族と一緒に考えていきます。